

青木繁「海の幸」記念館・小谷家住宅外観

NPO法人 青木繁「海の幸」会 「快燦会」開催

「小谷家住宅」修復・保存の目標達成

洋画家・青木繁が滞在制作した千葉県館山市の「海の幸」を「小谷家住宅」の修復・保存を目的とし

た「NPO法人青木繁『海の幸』会」(大村智理 会長)は、当初の目標を達成し、2月22日、東京都内で解散式「快燦会」と輝くお別れの会「快燦会」を行った。

「海の幸」が生まれた小谷家を保存しよう、洋画家・吉武研司、吉岡友次郎両氏の呼び掛けに、画家、美術関係者が賛同、2010年1月NPO法人の登記、同年2月に設立総会を開催、地元館山市の「青木繁『海の幸』誕生の家と記念碑を保存する会」(NPO法人安房文化遺産フォーラム)と協働し、目標金額4300万円を目指し

募金活動が始まった。その輪は広く一般にも広がり、文化講演会や館山市へのバスツアー、また青木繁「海の幸」オマージュ展(出品作家計217名)のチャリティ(69名のチャリティ)展)が東京、京都、福岡など全国で14回開催された。そして奇金の目処がついた2014年4月より工事に着手、2016年2月には目標金額4300万円を達成し、同年4月29日には「青木繁『海の幸』記念館・小谷家住宅」の一般公開が開始された。

現在までにおよそ4500万円の寄付が寄せられ、同会からは約3500万円(石橋財団からの助成金はじめ、理事長の大村智氏、青木繁の孫・松永洋子ほか、オマージュ展売上など、協賛会員及び協力者700人超からの寄付金)、及び地元では約1200万円(館山保存会の募金、館山市の補助金など)、ふるさと納税などを利用した寄付金が集まった。

同会副理事長の洋画家・入江観氏は「所期の目的を達成するために、予想をはるかに超えて8年の歳月がかかったが、それは多くの人々の『海の幸』への思いと善意が結晶した証であった」とこれまでの活動を振り返る。

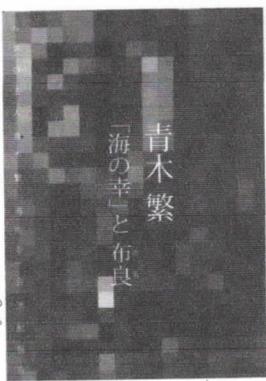
同会のこれまでの活動記録は、詳細な報告書「青木繁『海の幸』と布良」(出)に編纂され、後世に残された。

なお、地元館山市では青木の没後50年を記念し1962年「海の幸」記念碑が建立され、歴史的・文化的価値の高い小谷家住宅を保存するための長い活動の歴史がある。現

営を担い、更なる協力を呼び掛けている。

★青木繁「海の幸」記念館・小谷家住宅(千葉県館山市布良1256) 開館時間：毎週土・日曜(お盆時期・年末年始を除く)、4〜9月 10〜16時、10〜3月 10〜15時 維持協力金：一般200円

※布良へは東京駅八重洲南口発、バスタ新宿発の高速バスが便利。



活動報告書「青木繁「海の幸」と布良」